

氏名	小山歌子		
学位の種類	博士（保健学）		
学位記番号	甲第10号		
学位授与の日付	平成25年3月14日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
学位論文題目	健康推進員の主体化を促進する保健師の支援尺度および健康推進員のエンパワメント評価尺度の開発		
論文審査員	主査	新潟医療福祉大学	教授 村山伸子
	副査	新潟医療福祉大学	教授 山本正治
	副査	新潟医療福祉大学	教授 瀧口徹
	副査	新潟医療福祉大学	教授 塚本康子

論文内容の要旨

日本には、保健分野の住民組織の一つとして、行政養成型ボランティアである健康推進員（市町村によっては保健推進委員などの名称もあるが、以下「健康推進員」とする）が存在する。本研究の目的は、研究1では、健康推進員の主体性を促進する保健師の支援尺度を開発すること、研究2では、地区組織活動の重要な担い手である健康推進員を対象として、質的研究および量的研究を基に健康推進員のエンパワメント評価尺度を開発することである。

健康推進員の主体化を促進する保健師の支援尺度については、先行研究では、質的研究のみであり、尺度としては開発されていない。そこで、本研究では健康推進員の主体性を促進する保健師の支援尺度を開発することを目的とし、2011年に新潟県内で健康推進員を設置している19市町村に勤務する保健師の内、現在健康推進員を支援している保健師全員200人を対象に質問紙調査を実施した。調査項目は、保健師の属性、健康推進員の主体化を促進する保健師の支援内容、保健師の健康推進員の育成に対する意識、各保健師が支援している健康推進員の主体化の程度であった。調査票の回答者数（率）は、143人（71.5%）、有効回答者数（率）は140人（70.0%）であり、これらを解析に用いた。以下の結果が得られた。1. 項目分析として、項目－全体相関（I－T相関）、各項目を除外した場合のクロンバック α 係数、上位－下位分析（G－P分析）から、尺度の内的一貫性が確認された。項目間の相関分析の結果、52項目中、相関が0.7以上であった6項目を削除し、46項目が選択された。2. 46項目についての因子分析の結果、「健康推進員が行政や地域とつながる支援」（13項目）、「やりがいをもち楽しく活動できる支援」（8項目）、「地域での自主的な活動のための知識、技術、場の提供」（5項目）、「活動の拠点の提供と上司や同僚との合意」（5項目）の4つの下位尺度からなる31項目の「健康推進員の主体化を促進する保健師の支援尺度」が得られた。各因子および健康推進員の主体化を促進する保健師の支援尺度全体において、信頼性・妥当性が確認された。支援尺度は、今後、健康推進員の主体化を促進する保健師の支援を評価する尺度として活用可能である。

健康推進員のエンパワメント評価尺度については、先行研究では、保健師からみた健康推進員の主体化の評価尺度が開発されているが、当事者からみた評価尺度は開発されていない。そこで、本研究では質的研究および量的研究を基に健康推進員のエンパワメント評価尺度を開発することを目的とした。N県S保健所管内の人口規模等が類似したA市およびB市の健康推進員4グループに、フォーカス・グループ・インタビューを実施し、当事者からみたエンパワメント項目を抽出し、32項目からなる尺度原案を作成した。尺度原案について、郵送による質問紙調査を実施した。調査対象は、フォーカス・グループ・インタビューを実施した2市の平成21年度健康推進員全員660人とした。調査票の回答者数（率）は、401人（60.8%）、有効回答者数（率）は356人（53.9%）であり、これらを解析に用いた。以下の結果が得られた。

1. 項目分析として、項目－全体相関（I－T相関）、各項目を除外した場合のクロンバック α 係数、上位－下位分析（G－P分析）から、尺度の内的一貫性が確認された。項目間の相関分析の結果、32項目中、相関が0.7以上であった4項目を削除し、28項目が選択された。
2. 28項目についての因子分析の結果、「健康なまちづくり活動」（10項目）、「地域の健康課題解決への志向性」（10項目）、「民主的な組織活動」（4項目）、「健康推進員の個人としての成長」（4項目）の4つの下位尺度からなる28項目の「健康推進員のエンパワメント評価尺度」が得られた。各因子および評価尺度全体において、信頼性・妥当性が確認された。評価尺度は、今後、健康推進員が健康推進員のエンパワメント評価尺度として活用可能である。

各尺度は行動目標としても活用することができる。すなわち、保健師および健康推進員は、それぞれ低い得点の項目を識別することにより、自らの行動目標が明確となり、それを達成することにより総得点を増加させることができる。保健師の支援技術の向上により、健康推進員の主体化が促進されることおよび健康推進員の課題への取組により健康推進員の自主的な活動が発展することで、地域活動が強化されると考える。

本研究の課題としては、研究1で用いた健康推進員の主体化の尺度は、保健師が評価する尺度であり、かつ、主体化の程度にとどまっており、地域の変革の概念を含むエンパワメントの程度を評価していない。したがって、今後は本研究2で開発した健康推進員自身によるエンパワメント評価尺度を用いて研究1で開発した保健師の支援尺度が有効かを確認する必要がある。

なお、本論文の内容は、以下の学術雑誌に掲載済みである。

小山歌子, 村山伸子: 健康推進員のエンパワメント評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. 日本公衆衛生誌. 58: 618-627, 2011.

Utako Koyama, Nobuko Murayama: Development of a Scale to Measure the Degree of Support from Public Health Nurses to Promote Health Promotion Volunteers' Autonomy in Japan. Niigata Journal of Health and Welfare (in Press).

Key word: 健康推進員, 保健師, 主体化, エンパワメント, 尺度開発

論文審査結果の要旨

本博士論文は、主査および3名の副査による一次審査が実施され、一部修正し改善された。二次審査では、一次審査で指摘を受けた点が適切に修正されたことが主査および3名の副査により確認され、合格と判定された。判定要旨は以下のとおりである。

地域でヘルスプロモーションを推進する上で、主体的な住民参加や住民のエンパワメントは重要である。日本において地域の健康づくりをおこなう住民組織の1つに健康推進員があり、行政保健師の役割として彼らを支援することがある。しかし、これまで健康推進員の主体化の尺度は研究されているが、主体化につながる支援についての研究は少なく、支援を評価する尺度は開発されていない。また、健康推進員の主体的な活動を越えて、エンパワメントを評価する尺度は開発されていない。これらの尺度開発をおこなうことで、地域でのヘルスプロモーションを推進するツールを提供することを目的として本課題が設定された。

第1章では、研究の背景として、健康推進員の主体化、エンパワメントの意義、それを促進する尺度の必要性と先行研究を整理している。これまで健康推進員の主体化の尺度は研究されているが、主体化につながる支援についての研究は少なく、支援を評価する尺度は開発されていないことを示した。また、健康推進員の主体的な活動を越えて、エンパワメントを評価する尺度は開発されていないことを示した。そこで、本研究では健康推進員の主体化を支援する尺度開発、健康推進員のエンパワメント尺度開発を目的とすることを述べている。以上、地域でのヘルスプロモーションの推進という現場の課題から、理論や先行研究を踏まえて、適切に課題が設定されている。

第2章では、健康推進員の主体化を促進する保健師の支援尺度の開発と信頼性・妥当性の検討をおこなった。方法は、先行研究から項目を収集し作成した尺度原案について、18市町村の保健師140人の質問紙調査をおこなった。尺度の構成概念妥当性は因子分析を用いて検討し、信頼性はクロンバックの α 係数とI-T相関係数を用いて検討した結果、尺度の妥当性、信頼性を確認した。さらに、支援尺度と保健師からみた健康推進員の主体化の程度との関連を検討した結果、健康推進員の主体化得点が高いと評価した保健師は、支援尺度の得点が高かった。また、支援尺度と保健師の属性では、42歳以上、統括業務、健康推進員育成の意識が高い、研修受講、外部機関からの支援ありの場合、支援尺度得点が高いことを明らかにした。健康推進員の主体化の程度は保健師からみた評価であるため限界はあるものの、支援尺度の妥当性、信頼性が適切な方法で検証され、現場での活用により、根拠があり、成果があがる保健師活動に活用されることが期待できる。

第3章では、健康推進員のエンパワメント評価尺度を開発した。健康推進員自身が自己評価をするために作成され、その方法論に特徴がある。まず、健康推進員24人へのフォーカスグループインタビューから項目を抽出して尺度原案を作成し、2市の全健康推進員680人への量的調査で妥当性、信頼性を確認した労作である。信頼性、妥当性の検証方法は第2章と同様である。また、尺度と健康推進員の特性との検討をおこない、60歳以上、健康推進員年数2年以上、健康推進員以外の地域活動ありの場合、尺度得点が高いことを明らかにした。エンパワメントという難しい概念を具体的な指標にした、国際的にも画期的な研究である。

第4章では、以上の結論を整理している。

全体構成上、第2章と3章の関連に弱い点があるが、個々の章が学術論文として十分な内容である。

本論文の価値は、主体化やエンパワメントといった概念を実践に役立つツールとして展開したことにある。特に、エンパワメントの概念を、健康推進員への質的研究と量的研究に合わせて実際の尺度を作成する方法論は、尺度開発の研究方法論を確立する上でも寄与する貴重な研究である。

以上、優れた内容の研究であり、博士論文として合格と判定した。